

芝山町議選 鈴木幸司候補の勝利を待ちろ

日刊 動労千葉

84. 2. 4

No. 1556

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

3.25五割動労を実現し、二期阻止へ

※※※

三里塚はいま十九年の闘いの中で最大の決戦情勢に突入している。それは単に、三里塚を闘う者のみの情勢観ではけつしてない。

※※※

一貫した農民無視の空港建設

一九六六年、三里塚の農民をまったく無視して閣議決定の名の下に北総の大地をまるで、サイコロを転がすように、得手勝手に空港建設を決定した。

すなわち、三里塚農民が土地に生命をそそぎこみ、営々とぎりぎり拓いてきた農地を、根こそぎ強奪する攻撃にうってでてきたのである。そこには、前段の「話し合い」も「条件」もなく、「国策」のため、「国」のためなら「農民・人民は死んで当然である」という許すことのできない日帝・権力の暴挙であった。

この暴挙に農民の怒りは爆発し、「話し合い拒否」「農地死守」を決意して決起した。

日帝・第二次中曽根内閣は、三里塚・駒井野出身の水野を建設相に、山村を農水相にすえた。この布陣にみられるように、日帝・中曽根は、いよいよむきだしの凶暴化をもって、三里塚におそいかかってきている。十九年前の「国のためなら、農民・人民は殺してもかまわぬ」という暴挙をさらにエスカレートしているのが今日の三里塚の情勢である。

情勢の煮つまりは、徹底した反動派を生みだす

世界はいま、米帝・レーガンを先頭とする戦争挑発により各地で戦争が勃発している。日帝も自らの体制の崩壊の危機にみまわれ、その脱出をかけて軍事大国化に突き進んでいる。三里塚に照準を合わせた攻撃の凶暴化は同時に臨調・行革、とりわけ、国鉄解体にも向けられている。日帝の危機ゆえの凶暴化の中で三里塚現地は緊迫の度を増している。

ところが、このように反対同盟を叩きつぶしても二期を強行しようと決意した日帝・中曽根の前に完全に屈服し、そればかりか、二期推進＝農民殺しの先兵にまで転落した一部集団がいる。これが脱落派だ。昨年「三・八」をもって、三里塚十八年の闘いを裏切り、脱落していった彼らは、今や金もうけのために土地を切り売りし、公団と

の話し合いを画策し、条件派への道へと走っている。

さらに、国鉄戦線においても、動乗勤改悪攻撃と対決する決戦のただ中で、動労「本部」革マルとの徹底した闘いが問われている。

今日の、動労「本部」革マルは、「働き度を高める」方針をかげ、今日の日帝・臨調の大攻撃に率先して協力し、全国の職場で苦闘し闘っている国鉄労働者に屈服を強要し、臨調・行革の国鉄労働運動解体攻撃の先兵となっている。

先の「59・2ダイ改阻止闘争」において、それは全面開花したといえる。

彼らは、「59・2」提案時点で、完全に屈服し、早々と当局のいいなりの内容で妥結を画策しているながら、最後まで非妥協に闘いぬいた動労千葉や国労の労働者に「闘っても無意味である」ことを宣伝し、動労「本部」革マルのように、当局の軍門にくだるよう強要してまわったのである。これこそ、日帝、臨調・行革の国鉄労働運動解体「国鉄二〇万人台体制」へむけた攻撃の水先案内人の姿そのものではないか。

芝山町議選の勝利で反動を打ち破れ

そしてこれらのギリギリとした情勢の中で、階級闘争から脱落し、腐敗し、敵の先兵にまでなりさがったのが脱落派であり、動労「本部」革マルである。われわれは、これらの集団を、決して過少評価してはならない。裏切りと腐敗・敵の先兵として鮮明になった以上、徹底的に粉碎し、打倒するまで闘うことである。

その勝利のカギは、三里塚「三・二五現地大集会」の大爆発である。そしてそのためのさしまつた闘いは、二月芝山町議選＝三里塚反対同盟唯一の候補・鈴木幸司氏の当選にある。日帝・自民党、脱落派、革マルが一体となり、どのような卑劣な反動攻撃をかけようとも、正義と大義の名において必ずやこれを粉碎し、何がなんでも勝利しようではないか。

いよいよ2月4日告示

11日投票

芝山町の知人友人に電話で投票のよう